

ききやう

〔續後拾遺和歌集七〕物名きちかうをよめる

月草の色なる色ぞ珍らしきちかうてみればころもうつりぬ

〔散木奔詠集十〕隱題ききやう

あやまたぬ花の都ををのれからうき京なりと思ひけるかな

〔毛吹草三〕丹波 桔梗

〔佐渡志五〕物産桔梗 數種アリ、花或ハ紫ニ或ハ白ク單ナルアリ、複ナルアリ、北山ノ下ニ生ズルモノ紫ノヒトエニシテ、薬トナスニ佳ナリト云、

〔本草和名七〕沙參、一名知母、一名苦心、一名志取、一名虎鬚、一名白參、一名識美、一名久希、一名虎須、出

沙參

藥一名虎治須對出藥唐

〔和漢三才圖會九〕十二本羊角菜 羊爛科 合鉢兒 細絲藤 過路黃 今云茲人參、又云倭人參、○中略

按羊乳即沙參之別名也、然陳氏所謂羊乳乃羊角菜而倭沙參也、以有蔓爲蔓人參、又名弦人參和州、河州、信州處々

山中有之蔓生、其蔓葉共似初生蘿摩及葎薺葉、八九月葉間開小白花、亦有淡紫者、形如鈴鐸、根莖有

白汁、但宿根黃皺、有橫文理、如人參文、

尋常用之、換人參、最爲沙參、入用藥、而有功、嘗以爲沙參之一類、故代唐沙參者無異、正代人參者不可

也、

〔重修本草綱目啓蒙七〕山草沙參 ツリガ子、サウ、多、同、名、ツリガ子、ニンジン、ト、ギ、ニンジン、同名

ヤマダイコン、南部、キ、ハ、ヤウモド、キ、但州、シ、ヤク、シ、ナ、江州、ヤ、マ、ナ、同、上、ア、マ、ナ、同、上

シ、テ、ン、バ、筑前、ヘ、ビ、チ、ヤ、ワ、ン、上、總、シ、ヤ、ジ、ヤ、シ、ヤ、越、中、ビ、シ、ヤ、ビ、シ、ヤ、城州、一名加德藥

草本 烏羊婆奶 原本草 增一名志逐 千方

前中納言匡房